

第6回 第3次小牧市地域福祉計画及び地域福祉活動計画策定委員会 議事要旨

日 時	平成29年1月10日(火) 9時30分～10時50分
場 所	小牧市役所本庁舎 4階 402会議室
出席者	<p>【委員】(名簿順)</p> <p>柴田 謙治 金城学院大学人間科学部コミュニティ福祉学科教授 大西 良雄 小牧市地区民生委員・児童委員連絡協議会篠岡地区会長 鈴木 道子 北里地域包括支援センター ゆうあい管理者 成瀬 善男 藤栄シニアクラブ代表 松浦 詩子 小牧市ボランティア連絡会代表 羽飼 憲次 小牧市障害者相談支援事業所ふれあい総合相談支援センター相談支援専門員 鳥居 由香里 こまき市民活動ネットワーク理事 松浦 早苗 保健連絡員代表 深堀 眞喜子 小牧ケアサービス まごころ会長 大杉 富孝 一寸奉仕こまき代表 森 健一郎 小牧市社会福祉協議会 地域支え合い推進員 花村 琴美 公募市民 桑山 美知代 公募市民</p> <p>【欠席委員】</p> <p>佐藤 政明 小牧巾下区長会会長 前田 光咲子 元小牧市地区民生委員・児童委員連絡協議会北里地区副会長 長江 啓司 小牧市小中学校校長会 桃ヶ丘小学校校長</p> <p>【事務局】</p> <p>江口 幸全 健康福祉部 福祉総務課長 倉知 昌孝 健康福祉部 福祉総務課庶務係長 田中 秀治 社会福祉法人小牧市社会福祉協議会地域福祉課長</p>
傍聴者	1名
配付資料	<p>資料1 第3次計画素案</p> <p>資料2 第3次地域福祉計画素案 前回委員会からの主な変更点等</p>

主な内容

<p>1. 開会</p> <p>(1) あいさつ(柴田会長)</p> <ul style="list-style-type: none"> 計画策定に着手し、1年2ヶ月が経過した。本日は、計画素案のご意見をいただき、パブリックコメントを実施していくことになる。 本日も議事進行にご協力をお願いしたい。 <p>2. 議題</p> <p>(1) 第3次小牧市地域福祉計画及び地域福祉活動計画素案について</p> <ul style="list-style-type: none"> 事務局より、資料1・2を用いて説明。 質疑、主な意見は以下の通り。 <p>羽飼委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> 障害関連の項目が追加されたが、P7の表記の仕方について、「障がい」に統一をお願いしたい。 <p>鳥居委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> P47に子どもから大人までの福祉教育の充実欄に、防災教育を盛り込んでもらいたい。
--

- ・ P50 のイメージ図の中に、婦人会と記載されているが、実態として、婦人会は、ほとんどない。例えば、女性の会などに変更してはどうか。また、市民活動団体もネットワークの一員として追記してほしい。
- ・ P59 について、情報伝達に関する記載があるが、地震など急に発生するものは仕方ないが、風水害など、予測が出来る場合については、情報伝達のあり方に関する記載があってもよいか。

大杉委員)

- ・ P50 のイメージ図について、地域福祉計画の基本理念であり、「あなたが主役」としている。それではなぜ、“住民”の表記がないのか。
- ・ この形だと、集いの場やちょっとした手助けの活動がいることは理解できるが、結局、それらの活動の担い手を増やしていくことになってしまう。住民を中心としたイメージ図に変更したほうがいいのではないか。

柴田会長)

- ・ 今回の3次計画において、成果指標が設定された。
- ・ 地域福祉の分野で成果指標を掲げること自体、なかなか困難であるが、他の行政計画との整合を図りながら、計画的に進めるため、無理のない範囲で成果指標が設定されており、指標の内容、置き方など工夫されていると考える。

大杉委員)

- ・ 3者の役割について、こうした形で表記することは、基本理念の実現に向けては必要だと思う。

鈴木委員)

- ・ P50 のイメージ図の中で、地域包括支援センターが、どのあたりに位置づけられるのか気になる場所である。

柴田会長)

- ・ 図の中には、福祉関係事業者とあるが、地域包括支援センターとの整理が必要になるか。

大杉委員)

- ・ 高齢者にとって、初期段階の相談先が地域包括支援センターであり、そこを前出しにしていくことが重要だと思う。

森委員)

- ・ 先ほどの鳥居委員が、福祉教育に災害の視点を入れたほうがよいとの意見であったが、中学生と高校生のどちらがよいのか。中学生は地の利を活かした活動の展開がしやすいため、そちらのほうがよいと思うが。

鳥居委員)

- ・ 東日本大震災でもそうであったが、中学生が避難所運営のサポートとして、活躍した事例がある。
- ・ 中学生は、自分たちの学校であり、学校の設備など非常に理解している。まずは、中学生に対する教育を推進するほうがよいか。

柴田会長)

- ・ 他市の社協では、過去に、4つの重点事業（①見守り、②防災、③居場所づくり、④福祉教育）を活動計画に掲げた。
- ・ 住民との議論が進む中で、それぞれ4つの事業ともに関連があるということになり、4つの事業がそれぞれ、一部重なり合う形で推進することになった。
- ・ 今、小牧の計画では、5つの事業を単独で掲載しているが、こうした事業ごとのつながりや連携も必要ではないかかという意見であったと思う。

大杉委員)

- ・ P50 のイメージ図の中で、社協会費や共同募金を活動費として還元することしか記載がないが、市の助成についても追記すべきであると思う。

柴田会長)

- ・ 同じく、P50 の図の中で、地域支え合い推進員が枠の外に記載してあるが、ネットワークの中に入るべきではないか。

大西委員)

- ・ 地域支え合い推進員の配置目標となっているが、6 圏域で一人ずつ配置するということによいか。
- ・ 地域支え合い推進員は、地域住民などとの関係性づくりが重要であり、早期に配置し、時間をかけて推進していく必要があると考えるが。

事務局)

- ・ 専門職員の配置については、日常生活圏域ごと、小牧市では、6 圏域に配置し、地域包括支援センターと連携するなかで、小地域福祉活動やネットワークの推進を図って行きたいと考えている。

柴田会長)

- ・ 日常生活圏域ごとに専門職を配置していくという計画を明確にしていることは小牧市の強みであると考え。他市では、なかなか、ここまで明確には出来ていない。

大杉委員)

- ・ 今後、今のサロンとは、別の機能を持った居場所が必要になってくると思う。
- ・ 例えば、男性が集う場、認知症に特化した居場所、子ども食堂など多様な形の居場所が必要になってくる。こうした多様な居場所づくりについて、推進してもらいたい。

桑山委員)

- ・ ふれあい・いきいきサロンが 49 箇所あるとの記載があった。自分はまだ、参加したことがなく、どこで開催されているかも分からない。それらの情報について、周知されることが大切だと思う。

事務局)

- ・ 計画の参考資料として、マップに地域資源を落とし込んだものを作成する予定である。

大杉委員)

- ・ マップに箇所図を落とし込むのは非常に大切だと思う。

鳥居委員)

- ・ 親子の防災教育について、検討してもらいたい。先ほど、子どもに対する防災教育の視点が必要だと意見を述べたが、大人も学べる場がない。
- ・ そのため、親子が一同に防災について学べる機会が必要だと考える。

松浦詩委員)

- ・ ご近所福祉ネットワークの人員について、地域では、中学生や高校生など、さまざまな方が活動しているが、P50 のイメージ図には、記載がない。追記すべきだと考える。

松浦早委員)

- ・ 先ほど、災害時の避難所運営に関する意見があり、児童・生徒の活躍も分かるが、学校（先生）の関わりも重要になってくる。こうして視点も忘れてはならない。

3. 閉会

- ・ 委員の意見を踏まえ、素案を修正し、各委員に確認いただいた後、パブリックコメントを実施。
実施期間：2月から3月（予定）
- ・ 次回は平成29年3月21日（火）午後 開催予定